

授 業 時 間 割 6年前期

平成18年4月3日～平成18年7月28日

月	日	月				日	火				日	水				日	木				日	金			
		1	2	3	4		1	2	3	4		1	2	3	4		1	2	3	4		1	2	3	4
		8:50 \$ 10:20	10:30 \$ 12:00	13:00 \$ 14:30	14:40 \$ 16:10		8:50 \$ 10:20	10:30 \$ 12:00	13:00 \$ 14:30	14:40 \$ 16:10		8:50 \$ 10:20	10:30 \$ 12:00	13:00 \$ 14:30	14:40 \$ 16:10		8:50 \$ 10:20	10:30 \$ 12:00	13:00 \$ 14:30	14:40 \$ 16:10		8:50 \$ 10:20	10:30 \$ 12:00	13:00 \$ 14:30	14:40 \$ 16:10
3	27					28					29					30					31	高次臨床実習オリエンテーション			
4	3	高次臨床実習 1				4	高次臨床実習 1				5	高次臨床実習 1				6	高次臨床実習 1				7	高次臨床実習 1			
	10					11																			
	17					18																			
	24					25																			
5	1	高次臨床実習 2				2	高次臨床実習 2				3	憲法記念日				4	国民の休日				5	こどもの日			
	8					9																			
	15					16																			
	22					23																			
6	29	高次臨床実習 3				30	高次臨床実習 3				31	高次臨床実習 3				1	高次臨床実習 3				2	高次臨床実習 3			
	5					6																			
	12					13																			
	19					20																			
7	26	高次臨床実習 3				27	高次臨床実習 3				28	高次臨床実習 3				29	高次臨床実習 3				30	高次臨床実習 3			
	3					4																			
	10					11																			
	17					18																			
8	24	海の日				25	医と社会				26	医と社会				27	内科総括講義				28	内科総括講義			
	31	最終総括講義				1	最終総括講義				2	最終総括講義				3	最終総括講義				4	最終総括講義			
	7	8																							
	14	15																							
9	21	夏季休業				22	夏季休業				23	夏季休業				24	夏季休業				25	夏季休業			
	28	29																							
	4	5																							
	11	12																							
10	18	敬老の日				19	卒業試験期間				20	卒業試験期間				21	卒業試験期間				22	卒業試験期間			
	25	26																							
	2	3																							
	9	10																							
10	16	卒業試験期間				17	卒業試験期間				18	卒業試験期間				19	卒業試験期間				20	卒業試験期間			
	23	24																							
	30	31																							
	6	7																							
																						文化の日			

医 と 社 会

責任者 小 澤 寛 樹
精神神経学（精神病態制御学）
内線：2865 E-mail：ozawa07@net.

1. 教育目標・方針

6年次にあつてはいよいよ医師となる直前であり、特にコア・カリキュラムにもあげられているリスクマネジメント、医療事故及び医療法制、死生学を取り上げる。

臨床の現場では、医療事故を如何に防止するかについて安全管理に関する心構えを身に付けかつ倫理面を住した上での医事法制を学ぶ。

2. 授業内容（講義・実習項目）

医療マネジメント、医療事故に関し具体例をあげ、医療リスクマネジメントの実際を学ぶ。また薬剤投与に関する医療事故も多く、薬剤面からのリスクマネジメントについても理解する。また医師にとって重要である医事法制について法律の専門家による医師にとって必要な法的側面及び倫理観、宗教観からみた死生学について講義する。

3. 教科書、参考書等

特に指定しない。医療マネジメント、医事法制などの出版物は少なくない。必要に応じて各講義で紹介する。

4. 評価法

レポート、出欠状況及び授業を行った教官の評価結果を総合して決定する。

5. 教員名

法医学：中園一郎

医療情報部：本多正幸

薬剤部：佐々木 均

非常勤：浅野直人（福岡大学法学部長）

非常勤：早島 理（滋賀医科大学、哲学倫理学）

非常勤：向原茂明（国立病院長崎医療センター）

医と社会授業予定（6年前期）

月	日	曜日	校時	授業内容	担当講座等・教員	教室
7	18	火	1	医療情報におけるITと安全管理	医療情報部・本多	第1
			2	薬剤リスクマネジメント	薬剤部・佐々木	第1
			3	医事法制	非常勤・浅野	第1
			4	医療リスクマネジメント	非常勤・向原	第1
7	19	水	1	死生学	非常勤・早島	第1
			2	まとめ	法医学・中園	第1

内科総括講義

責任者 江口勝美
内科学第一（免疫内分泌代謝病態制御学）
内線：2800 E-mail: eguchi@net.

1. 教育目標・方針

4年生：疾病（病態を含めて）から確定診断するのに至る経緯を中心として講義をし、5年生から始まる病室実習に備える。さらに、疾患の病因を含め基礎知識から最新の治療まで教育する。
5年生・6年生：疾患の病因・病態を含め基礎知識から最新の知識まで教育する。

2. 授業内容（講義・実習項目）

講義主体（スライド、プリント、ビデオなど使用）

3. 教科書、参考書等

書名	著者	出版社	定価
内科学実習のための主訴よりみた 内科疾患の診断	原耕平、長瀧重信 監修	医薬ジャーナル	4,800 円
図説病態内科学講座 消化管－2	藤野雅之 他	メディカルビュー	20,600 円

4. 評価法

卒業試験に含める。

5. 教員名

第一内科：江口勝美
第二内科：河野 茂
第三内科：矢野捷介
原研内科：朝長万左男
熱研内科：有吉紅也

内科総括講義予定（6年前期）

月	日	曜日	校時	授業項目	授業内容	担当講座等・教員	教室
7	20	木	1	リウマチ・膠原病	「リウマチ学の1世紀を鑑み、リウマチの寛解を目指す」	内科1（江口）	臨2
			2	感染症	熱帯感染症の臨床総括	熱内（有吉）	
			3	循環器	不整脈	内科3（矢野）	
7	21	金	1	血液	悪性リンパ腫の臨床	原内（朝長）	臨2
			2	呼吸器	いま話題の呼吸器感染症	内科2（河野）	

最 終 臨 床 総 括 講 義

オーガナイザー：矢野捷介
内科学第三（循環病態制御内科学）
内線：2843, 2844
e-mail: junkanki@ml.nagasaki-u.ac.jp.

1. 教育目標・方針

6年間の医学部教育の総まとめとして、臨床各科の教授による総括講義を行う。講義は、次頁に示すように多岐にわたる内容・ねらいで構成されるが、卒業を目前にした諸君が習得しておくべき臨床医学を重点的に総括するものである。また、卒業後の医師、医学者としてのあり方など、諸君がこれから歩む人生に多くの示唆を提供するものである。

2. 講義題目、内容・ねらい、担当教官

講義題目	内容・ねらい	担当教員・所属
書かれた医学は過去の医学であり、目前に悩む患者さんの中に未来の医学の教科書の中身がある。（沖中重雄）	医学部6年間の医学教育は生涯教育の出発点であり、医師は卒業後も日進月歩の医学を生涯に亘って学んでいかなければなりません。患者さまは医師にとって、自分たちの医療技術を向上させる様々な知識を与えてくれる師であるばかりか、同時に「人間とは」ということを教えてくれる師でもあります。また、日常の診療において、医師の仕事は人の魂と交わることであり、患者さまの人間的な苦しみを栄養として知識を増やし、経験を積み、技術を磨いていきます。 悩める患者さまを前にして、患者さまの苦痛を少しでも緩わらせるにはどうしたら良いのか、常に疑問を抱き、思考し、真理を食欲に探究するResearch Mindも持ち合わせた臨床家を是非目指してもらいたい。	江口勝美 内科学第一 （免疫内分泌代謝病態制御学）
内科医として目指すもの	内科は臨床医学のアートである。問診と診察によって、疾患を絞り込み、必要な検査によって確定診断を行う。この過程は、目的地に向かうのにどの道を通り、どの交通手段で行くか、というナビゲーションに喩えることができる。近道があるかもしれないし、迷ってしまうかもしれない。地図があれば、目的地にたどり着けるだろう。地図は「知識」である。「経験」は近道を選び、険しい道を避ける助けになる。ときには道のない部分もあるだろうが、その道を造るのが「技術」である。そうして、「目的地」＝「診断」にたどり着いたら、evidenceを集めて、治療を行う。医学部6年間で学んだ知識を用いて、地図を読むことができるようになった。諸君はこれから「経験」や「技術」を身につけて行くのである。しかし、そのような修練を積みながらも、決して患者への尊敬を忘れてはならない。	河野茂 内科学第二 （呼吸器病態制御学）

講義題目	内容・ねらい	担当教員・所属
21世紀の医学・医療に求められるもの	<p>目覚ましい進歩を遂げた20世紀の医学・医療は、21世紀にもさらに進歩し変化していくことが予想される。医学の分野では分子生物学の知識や技術がさらに進み、医療も高度化、専門化、複雑化がさらに進んで、その在り方や形態も大きく変わっていくことが予想される。今後も医師が医療の主役であることに変わりはないが、医療に関わる他の職種の人たちとの緊密な連携がますます重要になり、患者の権利と自己決定に充分配慮した医療が要求される。また、超高齢社会の到来を背景にして治療、予防および福祉を包括した医療が必要になっていく。</p> <p>諸君はこれらのことをよく認識して、人間性豊かな医師あるいは医学者としての研鑽を積んでいって欲しい。</p>	矢野捷介 内科学第三 (循環病態制御内科学)
精神医学と脳科学の新展開	<p>「脳の中の自分はどこにあるのか？」これを解明することが今世紀にかせられた人類の最大課題である。これからの精神医学はこの課題に対して脳科学的戦略から挑戦するばかりでなく、社会的な存在である人間が根元的部分で誰もが持っている自分自身の「弱さ」に直面する事により、新たな価値観の創造を引き起こす原動力となる可能性を有している。私たちは、物事を判定するとき自分の価値基準の中で相対的に判断する。しかし、自分自身の先入観に基づく偏見が新しい価値を手に入れることが阻む最大の原因と考えられる。あくまでも主役は、病で長い間苦しんできた人々であり、医療者は如何に支援し、どこまで援助しないかを悩み、開かれた医療を目指しBIO・PSYCHO・SOCIAL・ETHICALの観点から世間に対して行動を起こすことを皆とともに考えたい。</p>	小澤寛樹 精神神経学 (精神病態制御学)
広く、深く、暖かく	<p>人生の中で、小児期ほど目紛しい変化を遂げる時期は有りません。その中で起こる全ての健康上の問題に立ち向かうのが、小児科医の役割です。またどの診療科に進んでも、プライマリーケアを行う上で小児を診ることができる事は不可欠です。その為には広い目で小児患者を診、深く疾患病態を見極め、暖かくこどもに接する事が求められます。各論講義や実習を通じて学んだ知識や技術を総括し、これからの小児科学ならびに小児の医療について考えてもらう場にしたいと思います。</p>	森内浩幸 小児科学 (小児病態制御学)

講義題目	内容・ねらい	担当教員・所属
これからの外科の目指すもの	21世紀の外科治療はこれまで画一的に行われてきた標準手術や機能温存を犠牲にした拡大手術などが見直され、内視鏡下手術を中心とする新しいデバイスを用いた低侵襲・機能温存手術やEBMに基づいた術式選択や補助療法を導入し、より個別化した集学的医療へと変遷しつつある。その一方で臓器移植や再生医学の導入などの臓器機能再建の分野としての外科の役割も重要となっている。この講義ではこれからの外科学の魅力とその展望を中心に話したい。	永安武 外科学第一 (腫瘍外科学)
新しい外科臨床が目指すもの	外科医療を新しい方向に発展させていくためには病態の解明や細胞生物学の進歩が欠かせない。ここでは、肝細胞移植や膵島移植などの新しい分野の現状と将来について講義する。	兼松隆之 外科学第二 (移植・消化器外科学)
21世紀に求められる整形外科	21世紀に入り人口の高齢化に伴う運動器障害・疾患は急増している。一般臨床医にとっても運動器疾患への対応は不可欠となる。特に加齢に伴う骨・関節の変性疾患・障害への適切なる対応は国家レベルにおいても”健康寿命”を如何に延ばすかが懸案となっている。一般臨床医にとって必須の整形外科知識について概説し、さらに将来に向けての展望を解説する。	進藤裕幸 整形外科学 (構造病態整形外科学)
総合科学としての皮膚科学 - 将来の展望 -	皮膚は人体最大の臓器である。皮膚科学の診療は問診・視診に始まり、病理診断も自ら行い、すべての診断プロセスを包括している。さらに、皮膚科学は皮膚に病変のあるすべての疾患を扱うため対象疾患は多彩であり、皮膚内科的なもの(膠原病学、アレルギー学など)から、皮膚外科的なものまでを包括する総合科学である。今後は社会医学的な皮膚科学の側面も重要となろう。重要な疾患を概説しながら、皮膚科学の展望について述べたい。	佐藤伸一 皮膚科学 (皮膚病態学)
21世紀における泌尿器科学の展望	泌尿器科学は外科学の分野であり、取り扱う内容について十分に理解されていません。米国では泌尿器科医は専門医の中のSpecialistとして高く評価されています。高齢化社会への突入と共に、泌尿器科医の需要が高まっており、他科とのかかわりについて、さらに今後の展望についてお話したいと思えます。	金武洋 泌尿器科学 (腎泌尿器病態学)

講義題目	内容・ねらい	担当教員・所属
眼科治療の限界と挑戦	<p>ヒトは外界からの情報のほとんどを視覚から得ており、視覚の喪失は死に匹敵する悲劇である。完全な視覚の喪失まで至らない場合も日常生活は極端に制限される。近年眼科学は飛躍的な発展を遂げてきたが、やはり視機能の低下する患者をゼロにするには至っていないし、網膜の再生や人工網膜も実用化されていない。そこで視機能が低下した（ロービジョンの）患者の残余視機能を何とか活用すること（ロービジョンケア）は、眼科医にとって必要不可欠なことである。最終講義では近年増加しつつある加齢黄斑変性とその最先端の治療について述べるとともに、不幸にして治療が奏効しなかった場合の、ロービジョンケアの方法について考える。</p>	北岡隆 眼科学 (眼科・視覚科学)
耳鼻咽喉科の医学と医療	<p>近年の医学知識の進歩は急速であり、常に新しい・正しい知識を理解・実践することが求められている。しかし、日常臨床の場での医療はあくまで人と人とのふれあいの中にあり、弱者である患者が中心であることを忘れてはならない。この医学と医療をうまく結び付けていくのが、我々の仕事である。最終講義として医療の実際についての我々の役割を討論したい。</p> <p>また最近の耳鼻咽喉科学の進歩についても触れる。</p>	高橋晴雄 耳鼻咽喉科学 (耳鼻咽喉病態制御学)
放射線医学・医療の最近の進歩	<p>画像診断機器の進歩だけでなく、より高速で大量のデータを処理できるコンピュータの開発、高速ネットワーク装置の発達により、放射線診療の根本的な形態が変わりつつある。また、分子イメージングや機能イメージングなどの新たな領域が注目されるようになってきた。放射線治療もより非侵襲的で治療効果の高いものが要求され、その適応が広がっている。このような状況の中で、放射線医学・医療の果たす役割について考える。</p>	上谷雅孝 放射線医学 (放射線診断治療学)
麻酔科学における重要事項の整理と解説	<p>麻酔科学は麻酔管理、集中治療、ペインクリニックと広範にわたっている。これらの領域における基本的かつ重要な事項を中心に解説し麻酔科学の集大成として知識を整理する。さらに今後の発展の方向として、麻酔管理における侵襲防御、集中治療における多臓器障害の克服、ペインクリニックにおける慢性痛の克服などのトピックスを紹介する。</p>	澄川耕二 麻酔学 (侵襲防御学)

講義題目	内容・ねらい	担当教員・所属
胎児医療の光と陰	<p>超音波検査をはじめとする画像診断法の飛躍的な進歩にともない、密室状態に置かれていた胎児に医療の光があてられるようになった。超音波断層法によって、その発育や形態が評価されるようになり、超音波ドプラ法では、胎児の機能情報が得られるようになった。不可触領域の存在であった胎児は、これらの医療機器によって数値化され、科学的評価の対象、すなわち医学の恩恵を受けるべき小さなヒトとしての立場を獲得した。一方で胎児は、法的にも医学上も、いまだに両親（ことに母親）に従属する存在であり、いったん安全（両親のであれ胎児のであれ）を脅かすような事態が生じたときは、出生後のヒトとはいささか異なる判断を下されることもありうる。着床前診断、出生前診断、人工妊娠中絶など、生殖医療を取り巻く問題の少なからぬ部分は、胎児医療に関わる領域なのである。一方でこのような倫理に関わる問題は胎児医療に限定されたものではなく、新しい医療が創成される場面では、義務と権利、法律や宗教観との衝突、あるいは技術の進歩と限界など、医療に内在する不可避な問題として遍在してきたものでもある。このような問題の解答は一筋には得られないが、その道筋には、医療者一被医療者間における会話を基礎に置いた方策が一定の成果を導くであろうとの共通認識が存在している。その方策とは、文言は違っても、カウンセリングやインフォームド・コンセントである。</p>	産婦人科学 (生殖病態生理学)
脳神経外科の現状と将来展望	<p>神経科学の発展と多彩な治療・診断機器の進歩をもとに脳神経外科学は急速な進歩を遂げた。現在は神経機能温存・回復を目的としたQOLを重視した治療へと進展しつつある。脳外科手術の現状と今後の展望について紹介する。</p>	永田 泉 脳神経外科学 (神経病態制御学)
形成外科の現況と今後の展望	<p>形成外科の診療内容は最近30年間でも大きく異なっている。最新の頭蓋顎顔面外科とマイクロサージャリーを中心として、今後の展望を示す。</p>	平野明喜 (形成再建外科学)
心臓外科の現状と将来	<p>心臓外科手術の適応と成績、問題点などの現状と導入されつつある新しい技術および将来について解説する。</p>	江石清行 心臓血管外科学 (循環病態制御外科学)
臨床検査にとって不可欠な知識	<p>臨床検査は、初期医療から高度先進医療まで客観的な医療のevidenceを担う重要な分野である。6年間の学習の総括と将来の医療を展望しつつ、一般医に必要な臨床検査の不可欠な知識を解説する。</p>	上平 憲 臨床検査医学 (病態解析・診断学)

講義題目	内容・ねらい	担当教員・所属
医学と医療の将来展望 -先端医療の動向-	血液内科学からみた21世紀の医学研究、とくに細胞医療、再生医療、遺伝子医療の展開を予測する。臨床医を目指す人、研究者を志す人に対するメッセージ。	朝長万左男 原研内科 (分子治療学)
臨床熱帯医学の役割と将来像	サイエンスに国境はない。国境を越えた南北の国際医学共同研究は、時に人類全体の保健医療に大きな裨益効果をもたらす。本講義では、アジア・アフリカ発信の医学研究を紹介し、臨床熱帯医学の役割と将来像について述べる。	有吉紅也 熱研内科

3. 講義日程

7月21日（木）～7月28日（木）に上記の21回の講義を行う。各講義の日・校時については、7月7日までに予定表を掲示するとともに、学生個人に配付する。

4. 評価法

講義内容を各科の卒業試験に含めることがある。

学士編入学者用授業計画

学士編入学3年次生及び学士編入学2年次後期に開講される授業科目のうち、一般学生とは別に、または一部別開講される科目について、授業内容等を掲載しています。

したがって、一般学生と一緒に開講される授業科目については、前掲の科目を参照してください。